

慢性疾患対策のさらなる充実に向けた検討会 ～議事進行メモ～

1 国民生活と慢性疾患

○慢性疾患をもつ者にとって慢性疾患をもちながら暮らしていくことは人生を通じて日常生活と密着した大きな問題。

○慢性疾患にかかったりそのリスクの高まった状態に陥ることは多くの国民が経験する身近なこと。

○慢性疾患は、その種類がきわめて多いことから、それぞれの疾患に伴う支援ニーズは様々であり、そのすべてを一度に視野におくことは容易ではないということも事実。

2 施策の現況

○ 疾患領域ごとの施策

- ・ 生活習慣病対策
- ・ 難治性疾患対策などの疾病対策

→ 施策としての取組がある程度進んでいる疾患領域と、そうでない領域とがある。

3 慢性疾患の全体像の俯瞰

○ 全体像の中での重要分野（疾患・問題の領域）を明らかにするとともに、これまでにとられてきた施策の有無・濃淡をも考慮に入れて、重要性と取組状況とのギャップにも意識を向けていく必要がある。

○ 死亡原因、受療状況、医療費等に加えて、QOLを加味した指標等さまざまな視点・指標から見た重要性と、これまでにとられてきた対策の状況とを勘案しながら、特に当面施策の充実を力を入れていくべき重点分野を系統的に明らかにしていくことが望まれる。

○ こうした検討を、たとえば年単位で行い、重点領域への問題意識を関係者が共有しつつ慢性疾患対策の充実を図っていくことも一つの方法と考えられる。

4 体系的な施策展開の必要性

- 重要分野で既存の施策が存在する領域については、今日の視点から施策のさらなる充実について検討するという姿勢が重要。
- 重要分野と考えられるものの取組が系統的になされていない領域については、情報へのアクセスやQOLの向上に向けた支援などを求める患者ニーズにいかに対応していくかといった視点から、施策のあり方を検討していくことが重要。
- 科学的な裏付けや、国際的な動向も視野におくとともに、施策の評価という観点も重視していくことが必要。
- 科学的根拠に基づく支援（エビデンス）と実際に行われている支援（プラクティス）とのギャップという視点も、今後の対策の充実を検討するうえでの視点として重要。
- さまざまな当事者(stakeholders)の連携・協力という視点も重要。

5 対策の充実を検討すべき疾患・領域の具体例

- 具体例を検討
 - ・ 糖尿病
 - ・ 慢性疾患に伴う痛み（pain） 等

6 まとめ